

胃潰瘍の出血には黄連解毒湯を服用

Q 四十二歳、男性。数年前、内視鏡で胃潰瘍

(いかいよつ)と診断されました。薬の治療で治りましたが、服用を中止すると再発します。細菌感染もしているとのことで抗生物質も飲んでいきます。ずっと西洋薬を服用するのが必要なのか、漢方薬に切り替えるのは可能かどうか、教えてください。

ている。

漢方薬は、胃潰瘍の出血には黄連解毒湯（おうれんげどくとう）がよく用いられる。みずおちの痛みや胸やけ、空腹時の吐き気などには、頑健型には四逆散（しぎやくさん）や柴胡桂枝湯（さいこけいしとう）がよく用いられる。きやしや型には安中散（あんちゅうさん）や六君子湯（りっくんしとう）が頻用される。

A 胃潰瘍の考え方や治療法はここ二〇年で大きく変化した。ヒスタミン受容体阻止剤やプロトンポンプ阻害剤といった胃酸分泌抑制剤が出て、手術の必要がほとんどなくなった。一方最近になってヘリコバクター・ピロリという細菌の感染が潰瘍形成に大きくかかわっていることがわかり、抗生物質による除菌の必要がいわれ

漢方治療の有用性は胃酸分泌の抑制や胃粘膜の防御因子の改善、ピロリ菌に対する抗菌作用とともに、潰瘍形成の悪循環に強く影響する心理的要素にも働くことである。現在の西洋医学的治療に比べ長期使用の安全性が高いことから、西洋医学的管理の下に併用療法や漢方薬への切り替えも一つの方法である。